

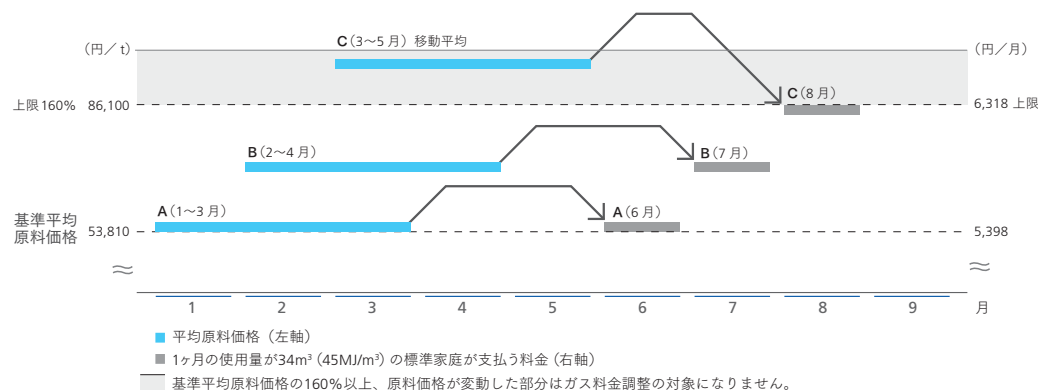
日本の都市ガス事業の特徴

天然ガスは、その環境優位性・供給安定性から幅広い用途で利用が進んでいます。天然ガスが我が国の一次エネルギー消費に占める比率は欧米に比して未だ低いことから、今後も他エネルギーと比較して相対的な成長ポテンシャルが大きいと期待されています。

都市ガス原料の液化天然ガス(LNG)を輸入に頼らざるを得ない日本では、LNG基地を基点とした供給区域ごとに導管網が形成され、都市ガスの製造・供給・販売が行われています。主に人口が集中する大都市圏を中心に導管網が整備され、遠隔地向けにはタンクローリー等による輸送・供給が行われています。

Topics : 原料費調整制度の概要

東京ガスの原料価格の変動と家庭のガス料金変動イメージ



原油価格、為替の変動はLNG価格に大きく影響するため、これらの変動はガス事業者の原料費にも大きな影響を与えることになります。こうした外生的要因(原料費の変動)を速やかにガス料金¹に反映させることにより、料金の透明性を向上させ、事業者の経営効率化努力を明確化させることを目的に、原料費調整制度が導入されています。

この制度により、原料調達コストの変動がガス事業者の収益に与える影響は中長期的にはニュートラルになっています²。

- 1 一般的にガス料金は、基本料金+従量料金(単位料金×ガス使用量)で構成されており、原料費調整制度は、単位料金部分に原料費の変動による調整額を反映させます。
- 2 原料費の支払いと、その原料費がガス料金に反映されるまでにはタイムラグがあるため、原油価格・為替レートの変動の動向によっては、単年度では原料費の回収不足・過回収が発生することがあります。

このとびらの内側では、ガス料金制度と当社の事業モデルの特徴を解説しています。

Contents

01 特集1 東京ガスの将来性を裏付ける4つの鍵	20 営業概況 20 ガスセグメント 27 ガス器具セグメント 受注工事セグメント 不動産賃貸セグメント	30 コーポレートガバナンス 36 CSR 38 FAQ 41 財務セクション 69 連結子会社および 持分法適用関連会社 70 投資関連情報
06 財務ハイライト	28 その他セグメント	
07 事業セグメント別概況	29 技術開発	
08 株主・投資家の皆さまへ		
13 特集2 2009~2013年度グループ中期経営計画		

日本のガス料金制度

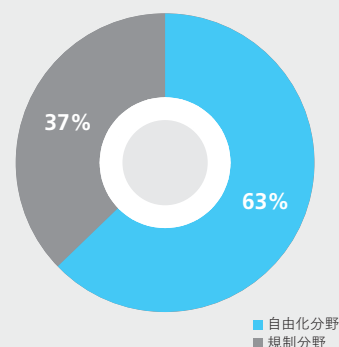
日本のガス市場における2つの領域

日本のガス市場は、規制分野(小口分野)と、自由化分野(大口・卸分野)の2つに分かれています。

規制分野(小口分野)では、経済産業大臣の認可を受けたガス事業者に供給区域内の独占供給が認められる一方、ガス事業者には供給義務・保安義務・料金規制が課せられています。

自由化分野(大口・卸分野)は、年間10万m³以上ご使用のお客さまを対象とし、供給区域外を含め、ガス事業者の自由な参入が認められており、ガス料金は事業者とお客さまの相対交渉で決定されます。なお、東京ガスでは大口分野においても、原料費をガス料金に転嫁する仕組みとしています。

日本の都市ガス市場における規制分野・自由化分野のガス使用量割合



料金改定

原料費の変動が反映される部分とは別に、基本料金などについての料金改定も行われています。東京ガスでは、株主の皆さまと同じくお客さまも大切なステークホルダーと考え、主に経営効率化による成果を還元する目的で、過去10年間に5回の料金改定を行ってきました。今後も競争環境を勘案しながら、料金引下げの効果が最大となるよう工夫していきます。

東京ガスの料金改定の推移

改定年月日	改定率
1999年12月10日	-2.00%
2001年2月15日	-3.02%
2005年1月1日	-5.18%
2006年2月21日	-0.28%
2008年4月15日	-1.51%

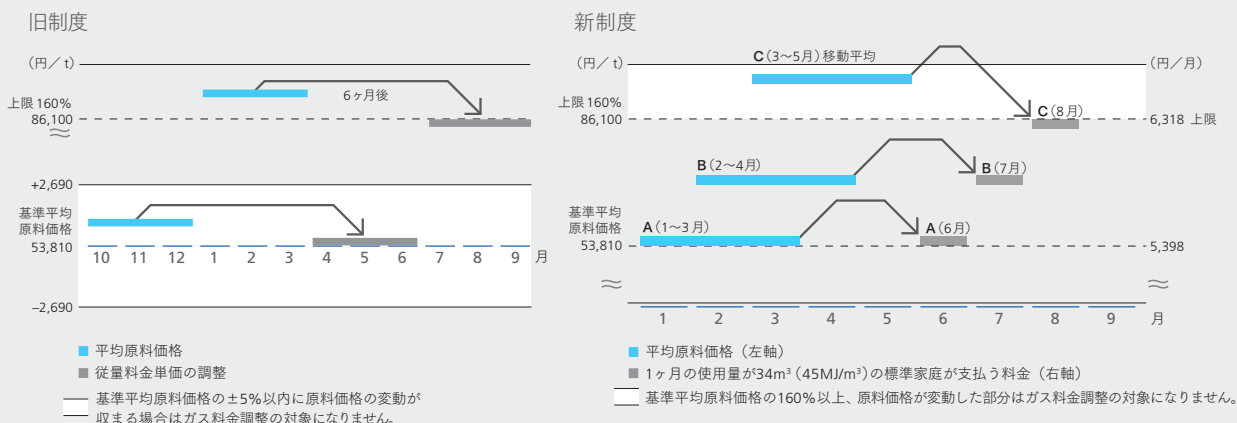
東京地区等における規制料金全体の平均改定率

原料費調整制度の変更

近年の原料価格の急激かつ大幅な変動を受けて、ガス料金の変動を緩やかに、かつ反映を速やかにすることを目的とし、原料費調整制度の見直しが行われました。その結果、2009年5月から、単位料金を毎月調整する新制度に移行しました。

この移行は、事業者側にとっても、原油価格や為替レートといった外部要因で変動する原料価格がより速やかにガス料金に反映されることとなり、単年度収支への影響が変更前に比べ軽減され、経営の安定化に寄与します。

(参考資料) 原料費調整制度の比較



東京ガスの事業モデル

東京ガスは、需要規模が大きく成長性の高い首都圏・関東エリアを事業基盤とし、1,051万件のお客さまにご利用いただいている日本最大の都市ガス事業者です。

都市ガス事業者としてお客さまにガスをお届けするだけではなく、LNG上流プロジェクトへの参画からLNGタンカーによる輸送事業、LNG受入基地での都市ガス化、パイプラインによるガス供給、ガス機器販売やお客さま先での保安までをカバーし、上流から下流までのバリューチェーンを構築している点が、世界のガス事業者と比べてユニークな点です。

東京ガスのLNGバリューチェーン



天然ガス資源開発
ダーウィン・プルート・ゴゴン
などでの上流プロジェクトへの参画
配給・小売・発電等の海外ガス関連事業



調達・輸送
自社管理船でのLNG輸送



製造・発電
都市ガス製造
LNGでの自社電源ビジネス



販売・サービス
家庭用・業務用・工業用都市ガス供給
電力の小売
エネルギーサービス



供給
パイプラインによる輸送
LNGローリー車による輸送
他ガス事業者への卸供給

当社のガス販売量は139.4億 m^3 で、日本の都市ガス事業者総販売量の4割以上を占めています。用途別では、2001年3月期までは家庭用分野の販売量が最も大きな割合を占めていましたが、それ以降工業用分野の販売量が家庭用分野を上回り、用途別販売量割合の中心となっています。

東京ガスのガス販売量
(2009年3月期)

